



■このコーナーでは、皆さんからの情報を募集しています。地区内行事、ボランティア活動などなんでもOK。総務課企画係(☎82-4111内線215)までご連絡ください。
■この広報紙にあなたが写っていましたら、総務課企画係へご連絡ください。写真をさしあげます。



たなかゆかりさん
(間瀬保・5歳児)

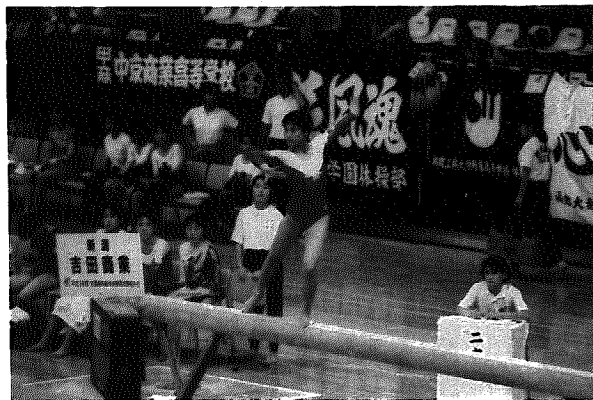


あべりゆうたくん
(間瀬保・5歳児)



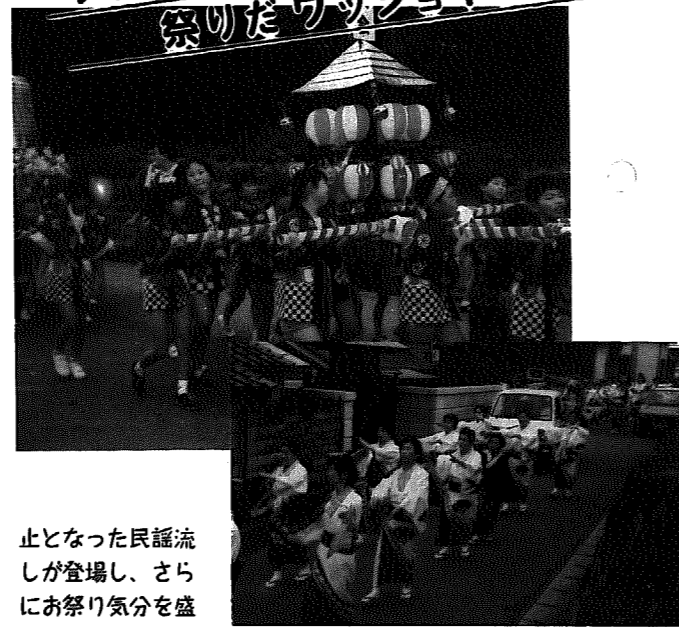
よねやまみかさん
(間瀬保・5歳児)

わたしの自信作



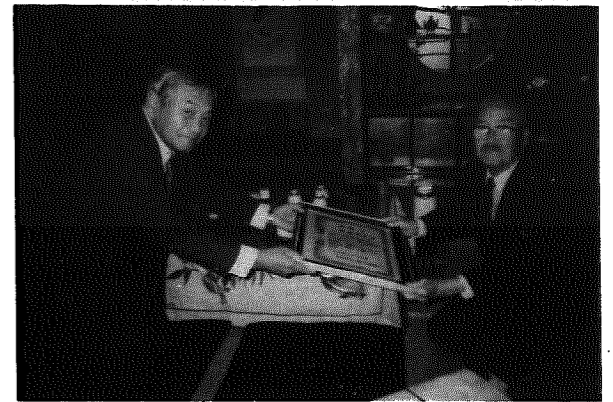
「ワッショイ! ワッショイ!」と元気な声が響きわたった先月15日。そうです、この日は毎年地区中をあげて大騒ぎする「間瀬八幡大祭」が行われたからです。年ごとににぎやかさを増す同地区の秋祭り。前日の14日はあいにくの天候で民謡流しなどが中止となりましたが、15日の本番にはその分まで楽しもうと地区内の子どもからお年寄りまでが大はりきり。当日は、子どもみこしを先頭に大人みこしが地区内を練り歩くころには、もうお祭り気分も最高潮。そして、前日中

ワッショイ! ワッショイ!
祭りだワッショイ



止となった民謡流しが登場し、さらにお祭り気分を盛り上げていました。そして夜には、ここの祭りの呼び物の一つ「芸能大会」が専光寺様で行われ、地区内の踊り自慢やのど自慢が繰り出。そのすばらしい歌や踊りに、詰めかけた見物人からたくさんの拍手や声援が送られていました。

「ペダルも軽やかに 村民サイクリング大会」
秋晴れの先月8日(日)、毎年恒例の「村民サイクリング大会」が開かれ、参加した親子らは、心地よい汗を流しながら加茂山公園(加茂市)を目指しサイクリングを楽しみました。
当日は、小学校三年生からお年寄りまで八十人が参加。清々しい秋風の吹く中、往復約五十キロ(約四時間三十分)の長距離を楽しみながら走りぬきました。でも、さすがに元気な子どもたちもこの距離となるとちよっとバテぎみの子もいたりしましたが、本当にうれしそうでした。



いつまでもお元気でね

「いつまでも元気で長生きしてくださいね」と先月15日敬老の日に、村内で今年90歳になられた人たち15人を鷺沢村長、和田議長らが表敬訪問しました。この訪問は、村の発展を長年支えてきた長寿者に感謝し、これからも元気で長生きしてもらおうと毎年行われているもので、当日は卒寿の祝いとして祝状と記念品(毛布丹前)がそれぞれに贈られました。ところで、いま年々高齢化が進むなかで、村内には70歳以上の人が1,200人(うち男性439人、女性761人/1現在)おられ、村の人口の約12%を占めています。お年寄りの皆さん、これからも元気で長生きして下さいね。

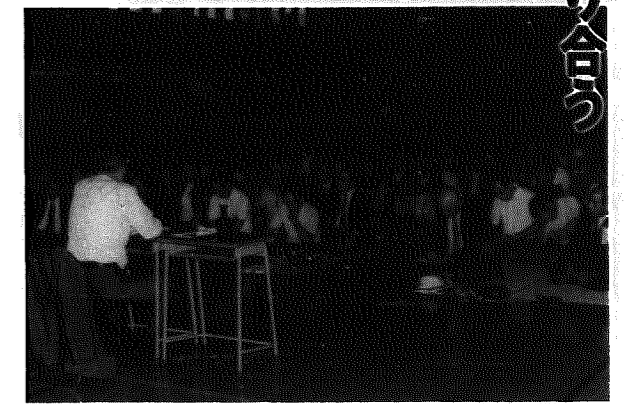


湖底イベント交流に一役

下田村で和納神楽舞を披露

去る8月16日から18日にかけて開催された「ヒメサユリ湖底イベントダムダム91inシタダ」には、予想を大きく上回る5万4千人が来場。初日16日のハイライトでもある「郷土芸能大会」で当村から和納無形文化財保存会(会長小川毅さん)の人たちが出演し、湖底イベントを盛り上げてきました。当日は県央広域圏の各市町村からそれぞれの郷土芸能が披露されましたが、中でも当村から出演した同保存会の勇壮で華麗な「神楽舞」の動きには見物客もしばし足を止め見入っていました。

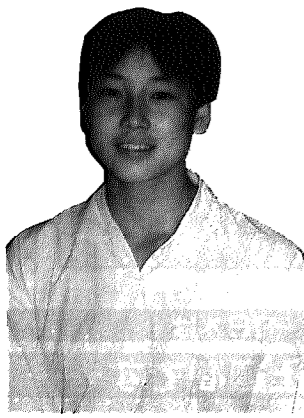
「県知事とみなさんが直接語り合う 知事とのふれあいトーク」が先月十三日、吉田町の総合体育館で開催され、岩室村をはじめ燕市、吉田町、分水町、弥彦村の五市町村から約五百五十人が参加し、金子県知事と直接の意見交換を行いました。
当日は、各市町村の人たちからいろいろな意見や要望が述べられましたが、当村からは岩室の高島勝さんが「道路問題について」、また原の大岩修作さんから「老人福祉について」の質問がそれぞれなされ、県側の対応をただしていただきました。



体操に青春を燃やす

北信越国体で個人総合優勝

八月に長野県で開催された北信越国体で、体操の少年少女の部で和納8区の間奈央子さん(吉田商高三年)が見事個人総合優勝に輝くとともに、団体優勝に大きく貢献しました。
みなさんも新聞などで、間さんの活躍を知っている方も多いと思いますが、間さんの実力は、いまや県内外でもトップクラスの實力で、インターハイ床での三位をはじめ数々の入賞を果たしています。そしてこの度の



間 奈央子さん
(和納8区・吉田商3年)
県大会1位(2年連続)インターハイ、国体出場、北信越大会個人3位、インターハイ床3位、個人17位、北信越国体個人1位